

第3号様式

平成23年度 京都市立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	B2	取組 名称	日本と中国の古典演劇の比較研究
研究代表者： 文 学部 (研究科) 教授： 山崎 福之			
研究担当者： 京都市立大学 (山崎福之、小松謙、岸本恵実、佐々木昇二 (敬称略)) 外部分担者・協力者 (赤松紀彦氏、池田敬子氏・山崎芙紗子氏、前田尚香氏、安東伸元氏)			
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)			
【研究活動の要約】			
(可能な限り府民目線で、分かりやすく簡潔に御記入ください。)			
<p>「日本と中国の古典演劇の比較研究」という研究テーマは、文学部日本・中国文学科で近年推進してきたものであり、これまでも二回シンポジウムを開き、またその内容をさらにわかりやすく解説した書籍の出版などを通して、その成果を一般府民に公開してきた。今回の特別研究では、これまでの日本の能楽と中国の崑曲という比較研究の対象をさらに広げて、日本の狂言と中国の古典演劇全体における狂言的演劇要素全般について考察することを目的としたものである。すでに昨年度の研究によって、課題となる事柄の概要を見通しており、今年度は内部研究者間の検討会や外部分担者とのメール等による緊密な協議を行った上で、三月に狂言と崑曲を実演するシンポジウムを開催して成果を検証した。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>上記の要約に記したように、本研究は日本の狂言と中国の古典演劇の中でも崑曲との比較を行った。研究分担者が、まずそれぞれ前年度に行った研究成果を検証した上で、その問題意識に基づいて日本演劇、中国演劇、そして西洋演劇の視点をも交えて総合的な研究を行った。「笑い」の要素を帯びた演劇のあり方について、改めて双方の演劇史における問題点がより明確になったことを踏まえて、その「笑い」を生み出すさまざまな「しぐさ」の分析の必要性が明らかになった。さらに狂言の実演者からの実際の舞台での上演における問題提起も行われた。</p> <p>それぞれの演劇における役者の実際的な動きと演出の関連性や、長時間の演劇の中での緊張と弛緩の調和の取り方、「しぐさ」とともに歌われる歌の効果といった問題が明瞭になってきたのである。</p> <p>こうした成果に基づいて、今年度の研究の目玉とも言うべきシンポジウムを3月11日に金剛能楽堂で開催した。これは2008年に行った、能と崑曲を実際に能舞台で上演して比較検証するという、極めてユニークな試みの続編とも言えるものであり、中国からも専門の役者を招き、「笑い」と「しぐさ」をテーマに設定して、研究成果を検証するとともに、その成果を広く公開するものとなった。</p>			
【研究成果の還元】			
H23/3/31「地域貢献型特別研究成果報告書 日本と中国の古典演劇の比較研究」(府大図書館で閲覧可) (希望者への配布・閲覧可能)			
【お問い合わせ先】			
文 学部 教授		：山崎福之	
Tel: 075-703-5209		E-mail: y-yamazaki@ml.kpu.ac.jp	